

視野研究会

吉川 啓司

吉川眼科クリニック

日本視野研究会(JPS)も25回を数えるが、その間、視野計は長足の進歩を遂げ、特に、自動視野計(CP)の発達が目覚ましい。CPの有用性については論を俟つまでもないが、一方、「ゴールドマン視野計(GP)不要論」を唱える眼科医も少なくない現状には大いに疑問が残る。そこで、今回、JPSの機会にGPの位置づけと再評価を目的とし、シンポジウムと特別講演を企画した。

【Session I : GP 最高! 再興!? 再考??】

座長: 鈴木 弘隆(都立大塚病院)

視野検査の必要な眼科の各領域におけるGPの評価について、若手とベテランの研究者がそれぞれの立場から検討した。

1. GP 最高! (神経眼科領域におけるGPの位置づけ)

中野 匡(東京慈恵医大) 病変部位ごとに、実例を挙げて解説した。視神経炎、虚血性視神経症など視交叉より前方の病変では「客観的に全体像を俯瞰でき」、視交叉近傍の病変の視野変化に対しては「垂直経線の切れ味が良く」、視交叉から後頭葉にかけての病変では「調和性・非調和性の把握に有用」であることが、GPの優位性であることを述べた。

藤本尚也(千葉大) 神経疾患の視野変化は他の眼科所見から予測しにくく、大局的な把握が必要である。この点からGPは有用であり、その典型例として「求心性視野狭窄」を挙げ、具体的に検討した。測定結果の判定には、定義の確立も必要であることを強調した。

2. GP 再興!?(高齢者・網膜疾患におけるGPの位置づけ)

井上立州(さいたま赤十字病院) 高齢者ではCP測定時の疲労感が測定結果に影響するほど強く、視野検査に対する意欲を削ぐ場合もあり、この点、イソプター数の調節など「柔軟な検査」が可能であるGPへの変更を考慮することが少なくないことを示した。また、CPの感度の良さが、網膜疾患における周辺視野や病変の広がりへの把握などに対し逆効果となる場合があることを実例を用いて説明した。

原澤佳代子(東京医大) 視野検査対象として高齢者と緑内障が増加していること、また、GPの検査数自体は以前に比べ、減少していないことを明らかにした。網膜疾患では、固視点付近の視野把握が重要であり、残存感度はCPにより評価するが、その局在性はGPによる評価が有利であると、述べた。また、GPの測定には眼科医の適切な指示が不可欠であることを検者の立場から付

け加えた。

3. GP 再考?? (緑内障のQOV評価におけるGPの位置づけ)

奥山幸子(近畿大) 緑内障治療の目的であるquality of vision(QOV)についてGPの測定結果と問診によるアンケートの両者を基に評価した。中心部、あるいは傍中心部に暗点や感度低下があると、湖崎分類IIIb期でもQOVの低下に直結することから、中心部の感度の維持が重要であることを強調した。一方、中心視野が消失していてもQOVが悪くない症例も散見され、この際、GPを用いることにより、両眼視野や周辺視野の状況が把握でき、これがQOVの評価に直結することを実証した。これらから、GPの併用による視野全体の評価がQOVや自立の可能性の判定・判断に役立つと、結んだ。

可児一孝(川崎医療福祉大) GPは器械としては優秀であるが、測定および結果の評価が難しい。これは、動的測定は「見えるところ」を調べ、一方、「見えないところ」は推し量るシステムだからであることを述べた。このため、静的測定、スポット測定、あるいは、小さいサイズの視標などGPの特徴であるハード・ソフトの両面の応用性を駆使することにより、視野を測定する必要性を示した。

【Session II : GP innovation】

座長 松本 長太(近畿大)

各種のGPを取り扱っている医療機器メーカーにその情報提供を依頼した。発表機器および演者は1. 940 ST(石山好松; ジャパンフォーカス) 2. HFA 750(東江美津子; カールツァイスメディテック) 3. Octopus 101(秦元実; アールイーメディカル) 4. DP-1(北村信也; タカギセイコー)である。

その後、座長から、現時点でのGPの評価と今後の展望が述べられた。すなわち、最近では、早期診断の困難さ、検者のトレーニングなどの点から、GPの使用機会は減少している。しかし、GPには視野測定において等閑視できない有用性がある。そこで、電子カルテの時代の到来を念頭に置いたGPデータのデジタル化、さらに、CPのシステムを用いた測定の自動化などが検討されるべきであり、今回、発表された機器もこの方向性を念頭に置いていた。しかし、「視標が動く」という不安定要素に対応するには、解決すべき点が山積しており、さらに改良が必要であることを指摘した。

【Session III : 特別講演】

座長 岩瀬 愛子(多治見市民病院)